



目次

「塾」SPRING 2011 NO.270の発行について……………1
 慶應義塾長からのメッセージ
 東北地方太平洋沖地震後の状況への慶應義塾の対応について……………2
 慶應義塾による「東北地方太平洋沖地震義援金」へのご協力をお願い……………4

塾生・保証人の皆様へ

『塾』SPRING 2011 NO.270の発行について

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震によって被災された皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、この『塾』は塾生ならびにその保証人の皆様を対象に季刊で発行しております。春号は例年4月1日に発行いたしておりますが、さきの震災の影響により発行が遅れましたことをお詫びいたします。

また、今号は2月末に取材、編集が完了しており、巻頭に本メッセージを挟み込む他は、予定通りの内容で発行することとしました。このことについての責任はあげて編集部にあります。よろしくご理解下さいますよう、お願いいたします。

掲載内容について

34ページ インフォメーションボード「平成23年度大学学事日程」

→ 3月23日に発表の通り、春学期授業開始日が変更となっています。
 詳しくは塾生ウェブサイト (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) をご参照下さい。

36ページ インフォメーションボード「2011年度 留学フェア・留学説明会のお知らせ」

→ 3月30日、4月4日、5日に開催予定であった「短期海外研修プログラム(夏季)および延世・復旦・立教・慶應リーダーシップフォーラム説明会」は延期となりました。今後の予定は国際センターウェブサイト (<http://www.ic.keio.ac.jp/>) にてご確認ください。

37ページ 萬來舎「塾債・教育振興資金ご協力をお願い」

→ 大学・大学院新入生の保証人の皆様に対し、基金室より5月下旬に募集のご案内をお送りする予定でしたが、6月以降に延期いたします。

その他、スタンドグラス(29ページ)の「体育会各部の主な試合日程」、インフォメーションボード(33ページ)の「大学塾生家族懇談会のお知らせ」、萬來舎(37ページ)の「福澤先生ウェーランド経済書講述記念講演会」については変更となる可能性があります。各ページ掲載のウェブサイトや慶應義塾公式ウェブサイト (<http://www.keio.ac.jp/>) 等をご確認下さい。

次号、『塾』SUMMER 2011 NO.271の発行予定について

夏号は例年7月1日に発行しておりますが、編集スケジュールの変更で発行日が数週間遅くなる可能性があります。あらかじめご承知おき下さいますようお願いいたします。

慶應義塾長からのメッセージ

東北地方太平洋沖地震後の状況への慶應義塾の対応について

慶應義塾長 清家 篤

三月十二日午後に発生した「東北地方太平洋沖地震」は未曾有の地震津波災害となり、被災地の実態を詳しく知るにつれ胸の塞がれる思いです。その犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表します。そして全ての被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。

現在の状況は極めて厳しいものがあります。まず被災者の救援と被災地の復興を急がなくてはなりません。さらに大きな打撃を受けた日本経済の建て直しも急務ですが、完全な回復にはかなりの時間がかかるでしょう。しかしわれわれは被災者、被災地の救援復興と、日本社会の回復発展をかならず成し遂げねばなりません。

そこで想起すべきは、福澤先生の言われた、実証的な科学という意味の「実学」、物事の軽重を冷静に判断するという意味の「公智」、そして災害などにあつて困難な状況にある人を思いやる心という意味の「徳心」です。これらは東北地方太平洋沖地震で被災された方々を救援し、被災地の復興をはかるときに、なによりも大切なものであります。慶應義塾はこの三つを基本にして、被災者の救援、被災地の復興、そしてその先にある日本の経済社会全体の回復とさらなる発展に貢献していきたいと考えています。

塾生や塾員の皆さんは慶應義塾で、実学すなわち科学をもとにした知力を高め、また正しい選択を行うことのできる公智の判断力を磨き、さらに困難な人を思いやる徳の力を養ってこられました。こうした力を結集し、社中力を合わせて、現在非常に困難な時に直面している日本を力強く復活させてほしいと思います。そして新たに塾生となる新入生も含め、そうした力を備えた

若者をこれからもしっかりと教育し、実学の基盤となる研究を進め、さらに医療の水準を高めるなど社会的活動の質を高めることを通じて、日本の社会、経済の回復とさらなる発展に寄与することが慶應義塾の社会的使命です。

今日この時点でも多くの方々が避難所等で不安な生活をされていることに心が痛みます。また自らの危険も顧みず救援活動にあたっている消防士、自衛隊員、警察官、行政職員、医療関係者、ボランティアなど多くの方々の献身、さらに米軍も含め国際的にも救援の手が差し伸べられることに、言葉に尽くせぬ敬意と感謝の念を禁じえません。

当面、慶應義塾は、被災者の方々の支援と被災地の復興のために、なすうることから速やかに実行していきたいと考えています。既に慶應連合三田会および全塾協議会とともに、義塾社中をあげて義援金の募集を開始し、また医療支援の一環として慶應義塾救援医療団を被災地に派遣しました。被災された塾生や入学予定の皆さんには学費減免や入学手続および学費等の納入期限の延長、さらに奨学金による支援の準備をしています。また三月末に予定されていた卒業式、学位授与式は中止しウェブ上で式典としましたが、四月の入学式も延期と決定いたしました。これは不安定な電力と交通機関の現状、余震への対応、そして電力消費抑制への配慮などから、一時に多数の人の集まる行事は当面控えるべきという判断によるもので、どうか御理解を頂きたいと思えます。

ただし、このように現在もまた電力や交通事情などについて予断を許さないところはあるものの、教育、研究、医療という本来の仕事については、できる限り平常通りしっかりと進めてまいります。厳しい状況にある日本社会への貢献として、慶應義塾の今なすべき最も重要なことはそこにあると考えるからです。塾生、塾員、教職員の力を合わせて、日本の直面する難局を乗り越えるための貢献をしていきたいと考えています。慶應義塾社中の団結と力の結集を、ここに改めてお願いする次第です。

二〇一一年三月二十二日

2011年3月17日

塾員およびご家族の皆様

慶應義塾内関係者の皆様

塾生およびご家族の皆様

この義援金の趣旨にご賛同いただけるすべての皆様

慶應義塾長 清家 篤
慶應連合三田会 会長 服部 禮次郎
慶應義塾大学全塾協議会 事務局長 神村 健太郎

慶應義塾による「東北地方太平洋沖地震義援金」へのご協力をお願い

このたびの「東北地方太平洋沖地震」による被害は広範囲にわたり、塾員、塾生およびそのご家族を含め多くの方が被災されています。すべての被災者の方々に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、物心両面において困難な状況にある被災者の皆様の安全と、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

かつて福澤諭吉は、数度の大災害に際し義援金を募るなど、被災地の支援に尽力しました。今回の震災にあたり、慶應義塾、慶應連合三田会、塾生代表機関の大学全塾協議会は、義塾社中として一致協力し、また趣旨にご賛同いただけるすべての皆様のご協力を得て、被災者の方々への最大限の支援を行うため、「東北地方太平洋沖地震義援金」を募ることいたしました。

寄せられましたご厚志の義援金は、日本赤十字社に寄付することといたしますが、被災地の医療支援のためにも使用させていただきます。すでに慶應義塾では、大学病院の医師・看護師・薬剤師・職員で構成される「慶應義塾救援医療団」を、東京都との協力により被災地へ派遣しているところです。

皆様におかれましては、「東北地方太平洋沖地震義援金」の趣旨にご賛同いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

ケイオウギジュクトウホクチホウタイヘイヨウオキジンギエンキン

義援金受け入れ口座

口座名：『慶應義塾東北地方太平洋沖地震義援金』

三井住友銀行 三田通支店 普通預金・口座番号 8243412

*募集期間は、3月17日から7月末までとさせていただきます。

*収支につきましては「三田評論」、「三田ジャーナル」、義塾および慶應連合三田会の各ホームページ等に公表してまいります。

*寄付金控除をご希望の方は、お手数でも慶應義塾基金室まで、「お名前（漢字・カナ）・ご住所・電話番号・振込日・金額・慶應義塾卒業の方は卒年学部」をご連絡下さいますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先：慶應義塾基金室

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 電話 03-5427-1542 FAX 03-5427-1546 E-mail kikin-box@adst.keio.ac.jp